

小松長生(こまつ ちようせい)



福井県生まれ。東京藝大附属音楽高校入学辞退後、東京大学文学部美学芸術学科(S56 卒)、米国イーストマン音楽院大学院指揮科卒(音楽芸術学博士号)。エクソン国際指揮者コンクール優勝。バッファロー管エクソン派遣指揮者、ボルティモア響アソシエート、キッチンナー・ウォータルー交響楽団及びカナダ室内アンサンブル音楽監督、武生(たけふ)国際音楽祭音楽 監督、リビウ国立歌劇場首席客演指揮者、東京フィルハーモニー交響楽団正指揮者、コスタリカ国立交響楽団芸術監督(現在同団桂冠指揮者)、セントラル愛知交響楽団音楽監督等を歴任。

これまでにモントリオール響、ケルン放送響、プラハ放送響、北ドイツフィル、ポリシヨイ劇場、キープ国立オペラ/バレエ、ソウルフィル、香港フィル、モスクワ放送響、ヴェネズエラ国立響、『東急ジルベスターコンサート』(マーラー復活最終楽章)、『題名のない音楽会』、『NHK BS プレミアム』、『NHK ららら クラシック』、TBS『砂の器』(千住 明 作曲、羽田 健太郎/日本フィル)、ベルリン・フィルハーモニー創立 50 周年記念日独第九演奏会、トヨタ・レクサス用マーク・レビンソン搭載 10 周年記念 CD (新日本フィルハーモニー)、釜山マル国際音楽祭、金沢『ガルガンチュア音楽祭』2019 ~などを指揮。金城学院大学教授(文学部音楽芸術学科 2010~2020)。2021 年セントラル愛知交響楽団桂冠指揮者に就任。

五嶋みどり・龍、堤 剛、ヒラリー・ハーン、ラン・ラン、山下洋輔、小曾根真、ジェイムス・ゴールウェイ、レナート・ブルゾン、石井竜也、谷村新司、東儀秀樹らジャンルを超えたアーティスト達とのコラボレーションも注目を集めている。自作の『新福井県民歌』(三好達治作詞)を御前指揮。著書:「リーダーシップは『第九』に学べ」(日本経済新聞出版社)ほか。